

その漢字 なんて、そう読むの？

木乃伊 (ミイラ)

「木乃伊」と書いて「ミイラ」と読むのは、なぜなんだろう。中国文学者の高島俊男氏の著書に、こうある。

「木乃伊」は漢語である…

この木乃伊、現代音では**木乃伊 (ムーナイイ)** だが、昔はこれを「**ムーナイ**」もしくは「**ムーニー**」と言ったものらしい。保存死体（日本人の言うミイラ）のことを英語では**マミー mummy**と言う。これはさかのぼるとアラビア語の**ムミヤ mumiya**に発する。オランダ語では**ムミー mumie**。これを音訳したのが「木乃伊」である（ムミーがムーニーになったのは m 音と n 音の交替である。日本のミイラも江戸時代の文献には「**にいら**」と書いたものがずいぶんある。m と n の交替がおこりやすい…）。

元来は中国語の音訳から来ているということだ。だから、中国語の音が分からなければ読めない。

「つまりもとのことばがちがうのだから、「木乃伊」をミイラとよめというのは乱暴である。

しかし日本人の言う「ミイラ」と漢語の「木乃伊」と、さすものはおなじなのである。

ものがおなじなんだから、よめなくてもよませちゃえ、というのが「木乃伊 (ミイラ)」なのである。」

（高島俊男「お言葉ですが…⑤ キライなことば勢揃い」文藝春秋社 2001）



流石 (さすが)

「流れる石」と書いて「さすが」とは、なぜなんだろう。

中国・晋の正史『晋書』（644年成立）にこんな故事がある。孫楚（そんそ）という人が、

「**漱流枕石（流れに漱（くちす）ぎ、石に枕す）**」と言うべきところを、誤って「**漱石枕流（石に漱（くちす）ぎ、流れに枕す）**」と言ってしまったが、石で漱ぐのは歯を磨くためであり、流れに枕するのは汚れた話を聞いた耳を洗うためであると、こじつけて言った。

ここから「**流石**」と書いて「**さすが**」と読むこととなったらしい。「**漱石枕流（そうせきちんりゅう）**」は四字熟語の成句として、「**強情で、負け惜しみが強いこと**」の意味がある。夏目金之助はこの故事からペンネームを漱石とした。



大和

やまと

「山処（やまと）」の意か。もと、天理市付近の地名から起こる。初め「倭」※と書いたが、元明天皇のとき国名に2字を用いることが定められ「倭」に通じる「和」に「大」の字を冠して大和とした。（『広辞苑』）ここに本拠を置いた政権が日本列島全体を代表することとなったので日本全体を表す言葉としても使用される。※「倭」は中国での日本および日本人をさしたことばで、「背が曲がってたけの低い小人」の意がある。

飛鳥

あすか

明日香の枕詞「飛ぶ鳥の」から「飛鳥」の字をあてる。（『全訳古語辞典』）

春日

かすが

枕詞の「春日（はるひ）」が「かすが」の地にかかることからの当て字。（『広辞苑』）

太秦

うずまさ

雄略天皇の御世、渡来系の豪族秦氏（秦酒公）が絹を「うず高く積んだ」ことから「禹豆満佐＝うずまさ」の号を与えられ、これに「太秦」の漢字表記を当てた。（Wikipedia）

雪花菜 (おから)

豆腐を作ったときの搾りかすが、雪でできた花のように見えるということか？「おから」は女房詞※で、豆腐を作るときの豆乳をしぼったあとの「から（殻）」。

※によぼうことば：室町時代、宮中に仕える女房たちが使った。型としては「御…」【…文字】のものが多く。



無花果 (イチジク)

外見からは花をつけないように見えることからの当て字。イチジクの花は独特で、壺形に肥大した花序の軸の内側に多数の雌性の小花が密集し、花はこの壺の中で開き、単為結実すると花序全体が肥大してイチジクの実となる。

